

うしおだ総合ケアセンター全体会が開催されました。

うしおだグループ内での地域包括ケアへの取り組みについては、毎月うしおだ総合ケアセンター事務局会議が開かれ、報告や提案が行われています。2019年3月27日、参加対象者を広げて、年に一度の全体会が開かれました。

・2018年度の振り返りでは、

様々な各事業所での取り組みが報告された後、診療所地域でのメモリーカフェ（認知症カフェ）や、認知症サポーター養成講座の講師役でありキャラバンメイト拡大の問題、専門職が地域に出た際に地域包括ケアに関して自分の専門性をどう生かせば良いのかわからない。各事業所で実は様々な取り組みがされているのに、グループ内でも知られていない事がある等、課題が出されました。

・2019年に取り組みたいことでは

- ① **認知症予防教室** 軽度認知症障害（MCI）の方への認知症予防や相談支援活動。
- ② **子ども食堂**（*1） 地域の企業なども巻き込み、取り組みたい。
- ③ **認知症の対応マニュアル作成**や外部活動をおこなうこと。
- ④ **送迎システムの充実**等、様々な意見が出されました。

まとめでは0から作ること大変だが、更新をしたり、追加することで可能になることもある。そのようなコンサルディング機能がうしおだ総合ケアセンターに求められているのではないかと締めくくられました。



子ども食堂って？

無料または安価で栄養のある食事や温かなだんらんを提供するところ。2010年ごろより報道を通じて広がり始め、2013年の「子供の貧困対策の推進に関する法律」が成立して、子どもの貧困対策として広がり始めています。2018年には全国に2200か所とも言われているが、正確な数は不明。



横浜東部脳卒中の会で小澤院長が講演

4月17日、「横浜東部脳卒中連携の会」が行われ、小澤院長が未破裂脳動脈瘤の治療方法について動画の解説を交えながら講演を行い、その後には血管内治療のデモンストレーションも行いました。また、会の中では2018年12月に「脳卒中・循環器対策基本法」が成立したことを受け、今後がんと同じく発症、治療等、患者の状況を把握して、急性期治療やリハビリの充実、新しい治療法の開発に弾みがつくことが期待されていると報告されました。



コミュニティデザインの時代

-自分たちで「まち」をつくる-

孤立や無縁に対するSDH対策。私たちがめざす無差別平等の地域包括ケア実現のヒントが詰まっている。「私たちがやりたいこと」、「私たちにできること」、「住民が望んでいること」の中央に、実行すべき企画がある。本書から住民参加・思考型の手法と実際に学び、活かしたい。



山崎亮著/中公新書



スタッフのひとこと

「平成最後の～」が、決まりのように聞こえてくる。元号は、もともとは中国に由来するもので、「君主が空間だけでなく時間まで支配する」という思想に基づくものだが、さて、主権者は、これをどのように考えればよいだろうか。とは言え、平成最後のケアセンターニュースをまずは締めくくりたい。K.O



メモリーカフェ



認知症にまつわる悩み、専門スタッフに相談できます

- ・ **汐田総合病院** 会場：ラウンジぴゅあ（病院2階）
5月9日（木） 6月13日（木） 14:00-16:00
- ・ **うしおだ診療所** 会場：友の会汐田・向井町支部事務所
5月9日（木） 6月13日（木） 13:30-15:30



うしおだ総合ケアセンター

We aim to build a non-discriminatory Integrated Community Care System that supports all